

図2-3-6 Dエリア詳細図

舟形光背木像浮彫 蓮華座一石

台座 別石、長方形、面取、刻字

石質 緑色凝灰岩、(台座とも)

法量 総高 99.5 cm (蓮華座・光背頂)

像高 68.5 cm (足下・化仏頂)

髮際高 52.5 cm

蓮華座 11 cm

光背右側面刻字

石工 高岡林 直七

台座 幅 51 cm、奥 32 cm、高 17.2 cm

台座刻字

正面 8 行 29 字

左右側面各 4 行 (未判読)

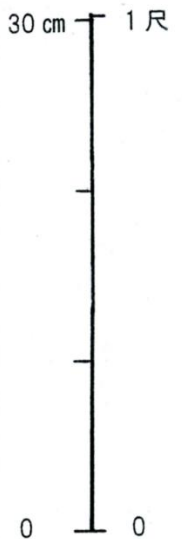
保存状態

錫杖手首欠失

右脇手持物一部欠失

左脇手に亀裂あり

真手右指上部欠失

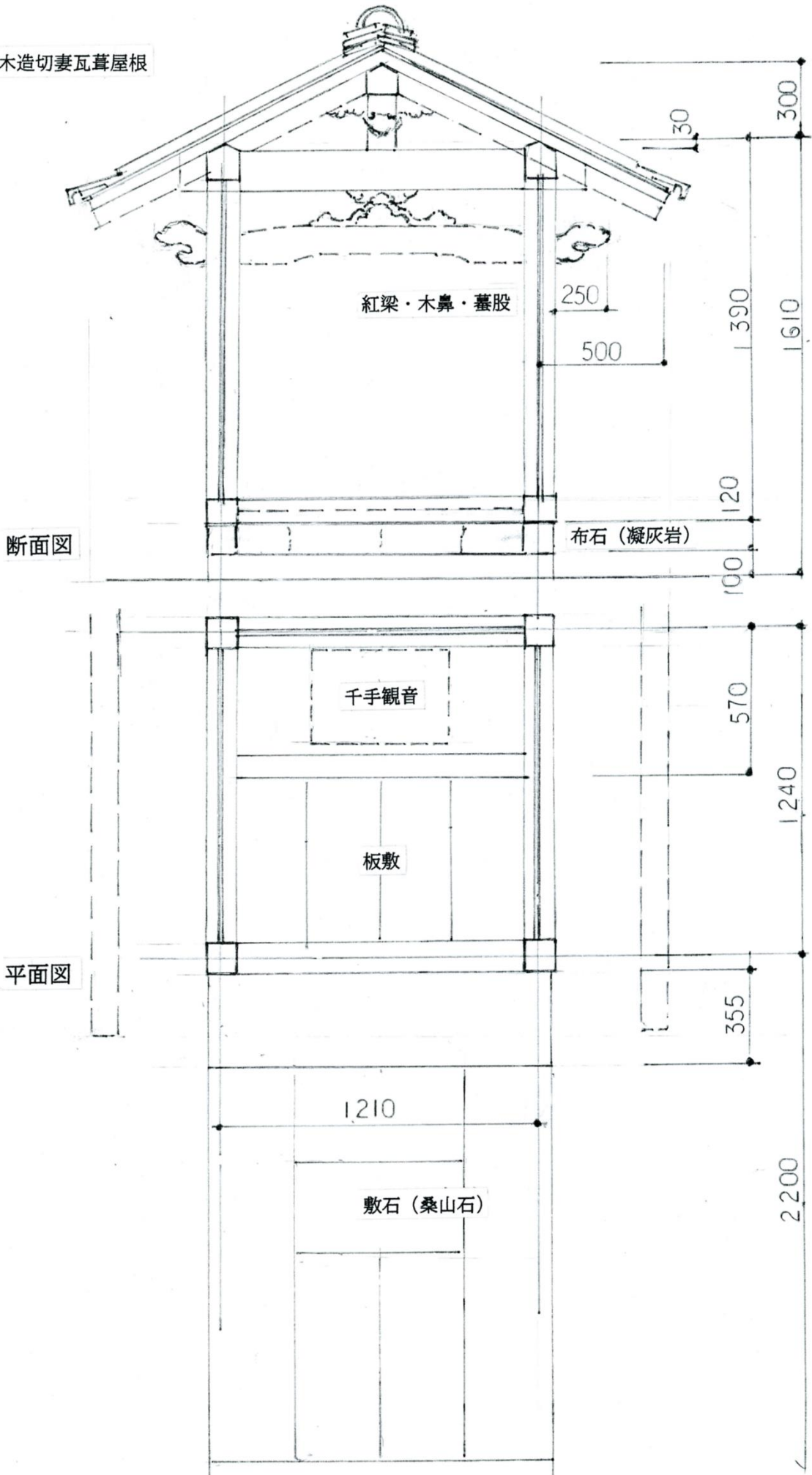


祈言願成  
 佛道無上  
 誓願文字  
 法門無量  
 誓願斷  
 煩惱無盡  
 誓願度  
 法主無邊



清水観音堂

木造切妻瓦葺屋根



二字を一宗不殘行たり。弟子共には不免、其子國房、國光長男にて一次郎と云。貞治の頃遺沼にて誅せらる。故に作のもの希也。○古刀鍛冶系圖に、越中字多系圖。元祖國光、大和國より越中礪波郡三日市村に來往。二代國光、三代國房、四代國久、但國久より後十三代の間其名不詳。字多國長は元祖國光より十八代目と云。此國長清左衛門と稱す。後勝國と改む。其子十九代國長新左衛門、其弟勝國清左衛門と稱す。元和の頃高岡に居住し、後加州に住す。國長の子二十代國長善太郎と云。其子廿一代國長又右衛門と云、今石動に居住し、貞享の頃存生とあり。○按ずるに、元祖國光の三日市へ來住せしは、古き事なるべし。

○靈龍寺址 貞享二年金澤八坂靈龍寺由來書に、嘉吉元年武州埼玉郡成田村龍淵寺二代以州和尙之建之。最前は越中礪波郡五位庄に在之、其時節寺地十七八町四方之由。則開山以州和尙之墓所に、印樹の櫻今以五位庄舊地に有之。云々。別由來書には、長祿三年赤松彦五郎政則創立。越中礪波郡五位庄三日市村に七堂伽藍建立。高嶽山靈龍寺と號す。其遺跡は三日市村の山手にて、今靈龍寺谷と呼べり。

開山以州和尙の墳墓あり。以州和尙は、永正十六年五月廿六日遷化なりと云。

○舞谷加茂明神 舞谷村。○正徳二年社堂調帳に、舞谷村加茂明神。社人同郡三日市村大和持分。○文政社號帳に、舞谷加茂大明神は舞谷村、島塚村、高島村、島倉村、西村等より宮修理等仕來とあり。寶曆社號帳に、山王社と誤れり。

○里傳に、舞谷村加茂明神は中興親王とて、元正天皇の二宮、此地に御在留の頃勸請し給ふ。故に此村をば往古は加茂村と稱すといへり。此社は近郷なる三日市村の舊神官青木氏の持宮也。

○城ヶ平山 同村。○後醍醐天皇第八之皇子、越中御下向、八の宮と稱し奉る。則此城ヶ平に御遷座被爲在よし、里人傳言す。

○親王塚 同村。○城ヶ平の麓畑中にあり、長さ三間幅二間、大木の杉木生茂れり。里傳に、神龜年中中興親王北園御下向、吉岡の御所にて薨去。此地に納瘞る故に、親王塚と云。但一説に、後醍醐天皇の皇子八宮の御塚とかや。確家傳承無之と云。○明治四年四月皇子等御陵墓調の節、

舞谷村役人よりの書上には、後醍醐天皇皇子八宮と申奉。建武二年此在所へ御越、御殿を築居給ふ地を城ヶ平と唱、且下加茂社の邊に右八宮の御墓の由にて、親王塚と唱、二間四方程の塚有之、塚上に杉木二本生、于今繁茂。石碑、石塔無之と書出せり。

○清水觀音堂跡 舞谷村。○文政七年邑長書上に、五位庄舞谷村清水、右は清水にては無之キヨミツと相唱。舞谷村百姓持山の内に有之林中也。村方に申傳候は、養老年中元正天皇の二宮、當村へ御越暫く御居住被爲在。其頃京都の清水を勸請被遊と申事にて、觀音の石像有之、殊之外相損し候に付、近年再建いたし候。○正徳二年社堂調帳に、赤丸村清水觀音とある、是なるべし。

○淺井城跡 赤丸村。○故墟考に、赤丸、淺井一蹟也。在五位庄赤丸村領。淺井とは、赤丸村に淺井神社あればなり。式内の神也。本丸南北卅間、東西廿間。二丸南北十五間、東西十間、西方長卅間、幅十七間、堀切東方長卅間、幅六間、堀切南北深沼田也。邑傳に、天正中中山國松之に據るを謙信攻取と云。是何年の役なるや、不可考。中山

國松無傳。方人亦傳ふ、元正帝養老元年、同帝二宮御下向、此に在城し、川人山鞍馬寺を建立す。云々。○寶曆十四年古城跡等調書に、本丸南北三十間程、東西廿間程。二丸南北十五間程、東西十間程。西方長三十間、幅七間程。堀切東方長三十間程幅六間程。堀切北南深田。先年中山國松殿居住之處、越後謙信被責落候由申傳候。○養永元年舊蹟調書には、赤丸村領之内城跡有之、淺井城と申傳。昔元正天皇の王子被爲入、其後下間和泉居住の由申傳と。○今按ずるに、今の城郭は中古以來戰國の頃互に防禦の爲に築きたるものにて、養老の頃かゝる城郭を築くべき由なし。邑人の傳説は元より取るに足らず。

○淺井神社 神名帳に、礪波郡淺井神社。○三州式社記に、淺井神社。淺井郷一郷之惣社。兼川人明神。古墟考に、五位庄赤丸村の神社是也。此村にある古城をば、赤丸城とも、淺井城とも云とあり。○越中地名考には、五位庄石塚村の社也とも、又赤丸村の社とも云とあり。○按ずるに、赤丸村の社は、從前山伏鞍馬寺別當たり。石塚村の社は三日市村八幡の神主青木氏の持社にて、兩村の社を互に式内



## 石工 高岡 林直七について

日本石仏協会 理事尾田武雄

西井龍儀氏より、電話にて高岡市福岡町舞谷にある「清水観音堂石造千手観音観音立像」の概略を教えていただいた。その際に「石工高岡直七」の刻字があることを教示していただいた。「石工林直七」については、高岡市にこのような石工がいたことは知っていた。砺波地方では井波石工、金屋石工が幕末から多くいたことが知られていたが、高岡については、多くはわからなかった。この機会にと、「林直七」銘の石仏を調べてみた。、『北陸石仏の会研究紀要』（創刊号 1996年11月）拙論文「富山県内『石工銘の石造物』一覧」によると、2体の石仏を見つけ、さっそく令和4年7月31日に調査をした。

① 阿弥陀如来 石工 高岡 林直七 文政元年（1818） 小矢部市野寺火葬場跡

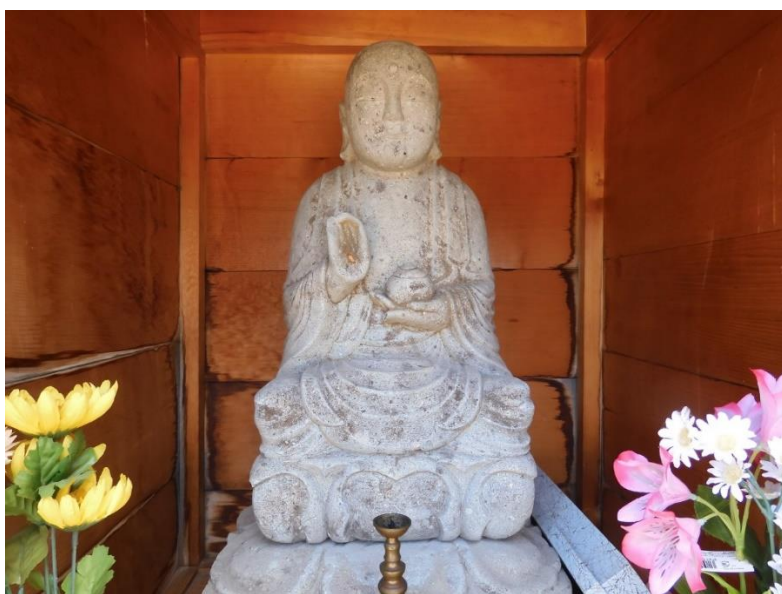
銘文台座正面に

「文政元寅年五月造立之」

「石工高岡林直七」



- ② 地藏 「高岡 石師 直七良作」 天保十三年（1842） 小矢部市五社  
お宮さんの北方面の道端 木造のお堂に入る。台座に彫られている。  
銘文台座正面に「天保十二丑六月」  
「高岡石師 直七良作」





- ① 『越中志徴』によると、「清水観音堂跡 舞谷村。○文政七年邑長書上に、五位庄舞谷村清水、右は清水(シミズ)にては之無キヨミズと相唱。舞谷村百姓持山の内有之林中也。村方に申傳候は、養老年中元正天皇の二宮、當村へ御越暫く御居住被為在。其頃京都の清水を勧請被遊と申事にて、観音の石像有之、殊之外相損し候に付、近年再建いたし候。」とある。「近年再建いたし候。」とは、小矢部市野寺火葬場跡、五社の銘を参考にすると、幕末期に清水観音堂石造千手観音観音立像が造像されたと思われる。
- ② 石材は、3体ともに青い凝灰岩質で、砺波の金屋石とは明らかに違う。福井市から採掘される笏谷石と思われる。管見であるが、砺波地方などでは、江戸時代中期の寛政年間や元禄期の笏谷石製の石仏が散見し、その後明治期中期ごろに普及していたと思われる。高岡石工の林直七が独自に入手経路を持っていたのであろうか。
- ③ この清水観音堂石造千手観音観音立像については、高岡市立博物館の仁ヶ竹亮介先生からも問い合わせがあって、多くはわからないままであった。今回、この機会を与えていただいた西井龍儀氏に感謝を申し上げたい。